

令和6年度 第2回学校運営協議会

1 日時 令和6年9月4日(水) 午前9時30分から11時30分まで

2 場所 静岡南部特別支援学校 3階 小会議室

3 出席者

(1)学校運営協議会委員

地域コーディネーター、静岡市社会福祉協議会センター長、NPO 法人ひまわり副理事長、小鹿こども園 園長、静岡済生会療育センター令和 療育支援課主幹、西豊田小学校 P T A 会長、本校 P T A 会長

※欠席 1 名

(2)本校職員

校長、教頭、事務長、部主事、訪問主任、進路地域支援課長、教務主任

4 議事録

【学校より 前期の取り組みより】

- ・今年度は従来からの地域交流活動の継続と充実を図り、児童生徒の地域とのふれあいを重視。
- ・地域資源を活用した校外学習でのふれあいや他校との交流活動を通して生徒のコミュニケーション力が向上してきている。
- ・タブレットを活用したオンライン交流も進み、訪問教育の生徒とも画面を通じてつながりが強化された。

【意見・感想】

- ・小学部・中学部ともに実際の地域との活動を大切に、地域交流が広がっている。
- ・地域の方と直接会って行う活動が重要であり継承するのがよい。
- ・社会では「認め合う」経験が不足している。地域交流はその機会となる。大切にしてほしい。
- ・ゲストティーチャーは教える側もやりがいがある。実現に向け様々な意見を出せる職場の環境づくりをしてほしい。
- ・地域との関わりについて、センター令和でも児童が話題にして楽しい行事になっている。
- ・地域の方に入っていただく活動はセンター令和の職員も楽しんでいる姿が見られる。
- ・コロナ渦で中断した地域のつながりを再開するためにはエネルギーが必要だが継続を。学校はそのための引継ぎをしてほしい。
- ・地域のつながりを広げるため、飲食店や公共施設での活動やメディアの活用をするのがよい。
- ・これから児童生徒数がより少人数になっていくので、学部を超えた授業の充実をしてほしい。
- ・学区に特別支援学校が無い小・中学校にも交流を広げるため、福祉教育講師としてチラシ配布をしたい。

【来年度に向けて】

①児童・生徒数の減少

- ・今後、児童・生徒数および職員数が減少する見込みだが、地域交流は継続すべき。
- ・現在の児童生徒への手厚い指導に感謝。今後も同様であってほしい。

- ・人数減を逆手に取り、サポートクラスや交流の場等、空きスペースの活用を。
- ・小学部・中学部合同授業を通じて、先輩が後輩に経験を伝える取り組みを。合同の教育が職員の負担を減らし、静岡南部特支の特色になる。
- ・駿河区の児童生徒に対し、中央特別支援学校より近い本校への受け入れの検討はどうか。
- ・発達障害、精神障害の方についても受け入れを検討してはどうか。
- ・少人数により個別指導は充実するが、集団での学習が困難になる。オンラインを含め対外的な授業を増やすとよい。子どもは同じ世代の関わりで育つ。
- ・地域の多様なスキルをもつ人を発掘し、リストにし、ゲストティーチャーとして教育課程の一部に入れ込んでどうか。

②地域防災の視点

- ・災害が現実的となる中、防災食等の備蓄品の確認と、マニュアルの見直しと確認を。
- ・センター令和では、職員だけの対応には限界がある。地域防災の訓練への参加を考えている。
- ・西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会を第4金曜日19時に実施。県立短大 江原先生を中心に災害時の要支援者への支援を進めている。よかったら参加をしてほしい。
- ・地域防災のために地域との交流の継続が重要。前期の手厚い交流の継続をしてほしい。
- ・南海トラフ注意情報が出て意識が高まった。能登半島の福祉事業所の話では、命を守るためには隣近所の力が一番必要とのこと。まずそこに知ってもらうことに注力を。
- ・災害時は管理者の判断力と、それを進める強い気持ちが必要。日頃からトレーニングを。
- ・地域の中で避難所が本当に必要な人、障害を持った人を受け入れる体制をつくるため、葵区・駿河区防災センターとの話し合いをしていく必要がある。
- ・職員参集ができないとき最初は行政の人が来るが、その後は地域の中で運用を考えなければならぬ。センター令和が横にあることは大きい。連携をしっかりとっていくことが大切。
- ・学校の空き教室での防災会議の開催はどうか。職員の参加も工夫を。
- ・要介護者の災害時の避難計画が学校にいると見えない。藤枝市は要支援世帯に3年に1度確認をしている。静岡市は実際には動いていない。自治会長でも知らない人がいる。
- ・避難行動支援者の個別避難計画が立て切れていない。相談支援事業所の役割になるのか。センター生は安心だが、帰省した時はどうするのがよいか。
- ・高齢者はリストがあるが、障害者は個人情報関係で作成が難しい面がある。まず親御さんが申し出て市の防災担当と直接話をしてほしい。学校は親御さんに働きかけを。行政は個々が訴えることが一番動きが早い。

○少ない児童生徒数をプラスにとらえる視点として様々なヒントをいただき、また防災について地域とのつながりの重要性を考える機会となった。防災については今後継続的に考えていく必要がある。

○次回は静岡視覚特別支援学校との合同の学校運営協議会を予定している。

次回開催日：令和6年11月6日（水）